

江木地区活性化計画

平成27(2015)年3月

江木自治区

(江木地区地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1 章	地区の概要	2
1	位置・面積	2
2	人口・世帯数	3
3	道路・交通	5
4	主要公共公益施設等	5
2 章	地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	7
1	調査概要	7
2	調査結果	7
3 章	地区の魅力・資源と問題点・課題	20
1	地区の魅力・資源	20
2	地区の問題点・課題	22
4 章	地区の活性化計画	23
1	地区の将来像	23
2	地区づくりの基本方針	25
3	地区づくりの基本計画	26
4	計画の推進体制	34
資料	計画策定の取り組み	36

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

江木地区は、かつて日本三大牛馬市の一つとして栄えた場所で、また、久井稻生神社の祭礼の時には多くの参拝客があります。こうした古い歴史のある本地区は、久井地域の商業・医療の中心としての役割を果たしてきました。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区活動の担い手不足、公共公益施設の減少、地区の基幹産業である商業及び農業の低迷などにより、以前の賑わいが失われてきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、江木自治区では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、「江木地区活性化計画」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「江木地区活性化計画」は、江木自治区が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、江木地区出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

江木自治区では、各種団体の代表者などとともに「江木地区地域計画策定委員会」を設置し、「江木地区活性化計画」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区内住民（16歳以上）へのアンケート調査の実施、地区住民全員を対象とした意見交換会（ワークショップ）を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成27(2015)～31(2019)年度までの5年間とします。

1章 地区の概要

1 位置・面積

本地区は、三原市久井地域の北部中央に位置しており、面積は約3.9km²です。

図1 江木地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で847人になっており、過去5年間で約8%減少しています。

年齢4区分別人口をみると、平成22(2010)年で0～14歳89人、15～64歳384人、65～74歳122人、75歳以上252人になっており、65歳以上の割合は約44%になっています。

年齢別にみると、過去5年間で各年齢ともに減少しています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区 分		平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
実数	0～14歳	111	89	△ 22
	15～64歳	425	384	△ 41
	65～74歳	124	122	△ 2
	75歳以上	258	252	△ 6
	合計	918	847	△ 71
割合	0～14歳	12.1	10.5	△ 1.6
	15～64歳	46.3	45.3	△ 1.0
	65～74歳	13.5	14.4	0.9
	75歳以上	28.1	29.8	1.7

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で276世帯になっており、過去5年間で9世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で3.07人と、三原市中山間地域の世帯人員2.77人に比べて多くなっています。

また、その推移をみると、過去5年間で0.15人減少しています。

表2 世帯数等の推移

区 分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
世帯数 (世帯)	285	276	△ 9
世帯人員 (人)	3.22	3.07	△ 0.15

(3) 人口の将来見通し

人口の将来見通しを平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成31(2019)年で730人、平成36(2024)年で約680人になり、平成22(2010)年と平成36(2024)年と比較すると170人の減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成36(2024)年の人口を比較すると、0～14歳で89人から27人、15～64歳で384人から343人、65～74歳で122人から95人、75歳以上で252人から212人になり、各年齢ともに減少するものと見込まれ、特に0～14歳の人口の減少が著しくなっています。

また、高齢化率は、平成31(2019)年、平成36(2024)年ともに約45%で、平成22(2010)年以降微増で推移するものと見込まれます。

図2 年齢区分別人口推計

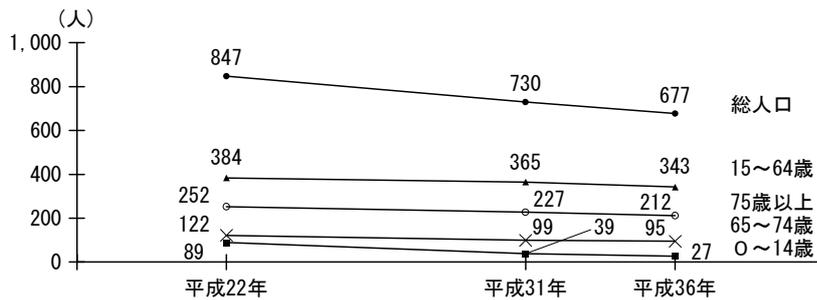


図3 年齢区分別人口割合

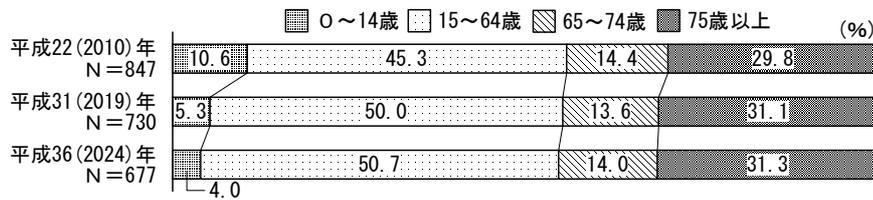
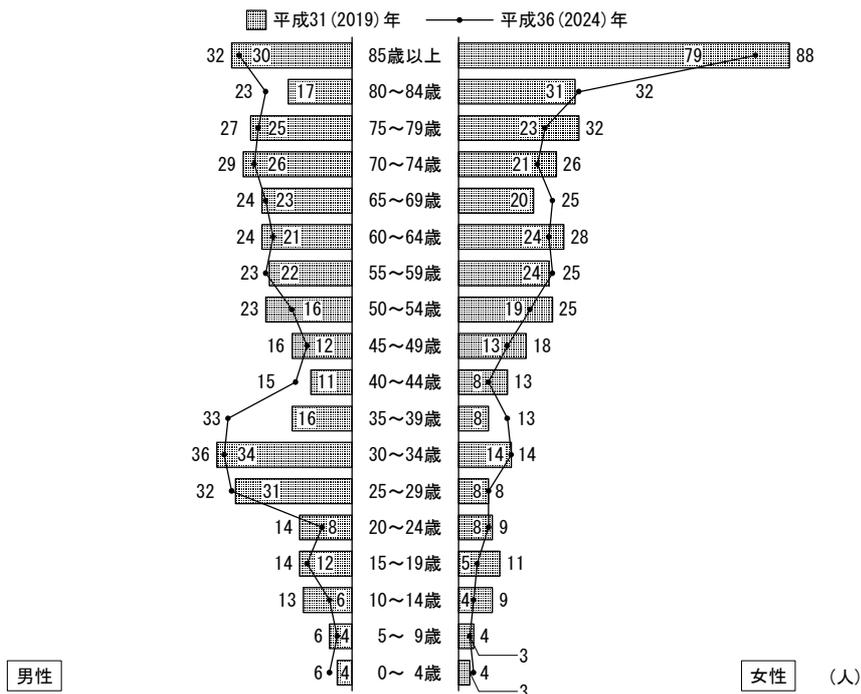


図4 男女別5歳階級別人口



3 道路・交通

道路網は、主要地方道三原東城線が南北に走り、三原市中心部、山陽自動車道三原久井インターチェンジ及び世羅町中心部と連絡しています。また、一般県道大和久井線及び同御調久井線が東西に走っており、三原市大和地域、尾道市御調地域と連絡しています。

地域の公共交通としては、三原市中心部と世羅町中心部を連絡する路線バスが運行されています。また、久井支所周辺及び江木地区中心部と周辺集落を連絡する久井ふれあいバスが週2日運行されており、江木地区においては、社会福祉法人亀甲会の入所者などが利用しています。

4 主要公共公益施設等

本地区は久井地域の医療・商業の中心としての役割を果たしてきた地区であり、公立くい診療所をはじめとする医療機関が複数立地しているほか、商店数は減少しているもののスーパー、一般商店が立地しています。そのほか、文化集会施設、スポーツ施設、郵便局、金融機関が立地しており、三原市中山間地域の中では比較的利便性に恵まれた地区になっています。

表3 江木地区の公共公益施設等

区 分	名 称
文化集会施設	久井の市コミュニティホーム
	三原市久井歴史民俗資料館
	久井牛山自然公園
スポーツ施設	江木スポーツ広場
医療機関	公立くい診療所
	もだ内科クリニック
	久井歯科医院
介護施設	社会福祉法人亀甲会（特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、デイサービスセンター等）
その他	久井郵便局
	J A三原久井出張所
	両備信用組合久井支店

図5 江木地区の公共公益施設等



2章 地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

1 調査概要

本調査は、地区内住民（16歳以上）の意見を把握し、「江木地区活性化計画」の策定に反映するために行ったもので、調査票の回収件数は404件でした。

2 調査結果

(1) 回答者自身について

回答者の性別は、「男性」46.5%、「女性」49.8%でほぼ同程度です。

年齢は、「65～74歳」が20.0%で最も割合が高く、次いで「50歳代」19.8%、「75～84歳」13.6%、「40歳代」12.6%、「85歳以上」8.7%、「60～64歳」8.2%、「20歳代」6.7%、「30歳代」5.9%、「19歳以下」4.0%の順になっており、65歳以上が4割以上を占めています。

家族構成は、「二世世代（子どもと同居）」が30.4%で最も割合が高く、次いで「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」及び「二世世代（親と同居）」18.3%、「三世代・四世代」15.3%、「一人暮らし（65歳以上）」5.7%、「夫婦二人暮らし（夫婦ともに65歳未満）」4.2%、「一人暮らし（65歳未満）」2.0%の順になっており、「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合が約1/4近くを占めています。

図6 性別

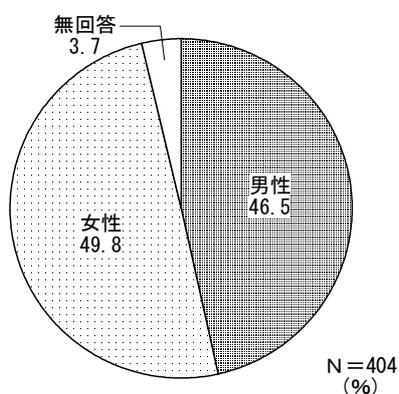


図7 年齢

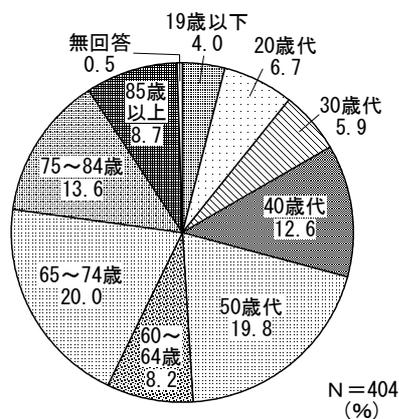
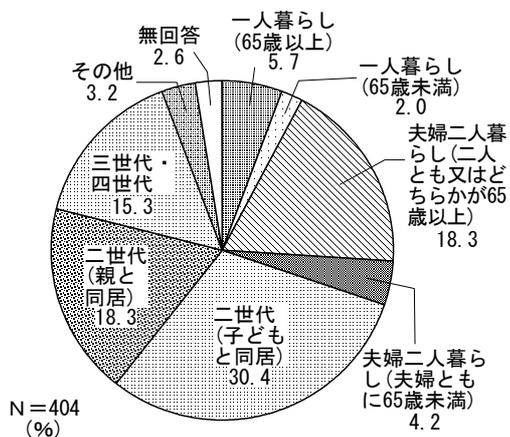


図8 家族構成



(2) 行事・活動への参加状況と満足度

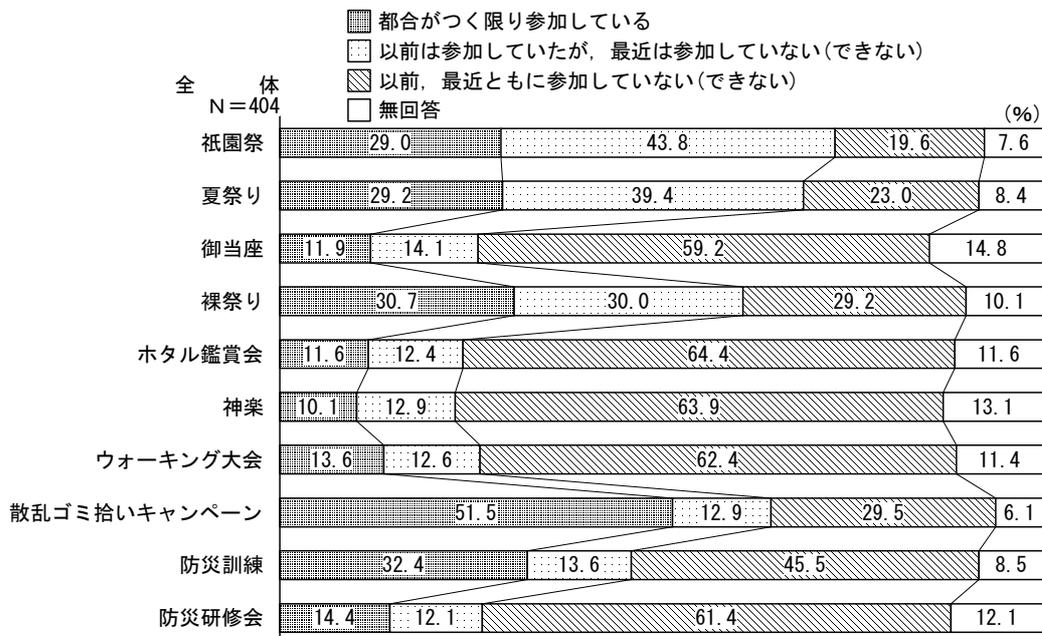
ア 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「都合がつく限り参加している」と答えた人をみると、「散乱ゴミ拾いキャンペーン」が51.5%で最も割合が高くなっています。次いで、「防災訓練」32.4%、「裸祭り」30.7%、「夏祭り」29.2%、「祇園祭」29.0%の順で、これら4項目が30%前後になっています。その他では、「防災研修会」14.4%、「ウォーキング大会」13.6%、「御当座」11.9%、「ホテル鑑賞会」11.6%、「神楽」10.1%の順で、割合が低くなっています。

また、「以前は参加していたが、最近では参加していない(できない)」と答えた人をみると、「祇園祭」、「夏祭り」及び「裸祭り」で30%以上と割合がやや高くなっています。

さらに、「以前、最近ともに参加していない(できない)」と答えた人をみると、「ホテル鑑賞会」、「神楽」、「ウォーキング大会」及び「防災研修会」の4項目で6割以上、「御当座」及び「防災訓練」で40～50%台と割合が高くなっています。

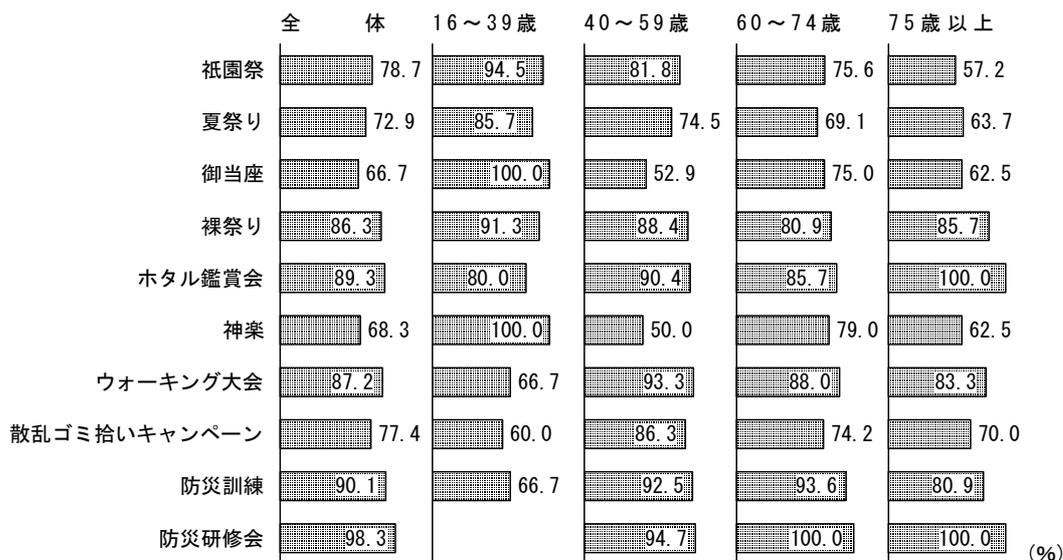
図9 参加状況



イ 行事・活動に参加した人の満足度

行事や活動へ参加している人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、90%台2項目、80%台3項目、70%台3項目、60%台2項目でやや満足度に差があります。その中で、「防災研修会」は98.3%で満足度が高く、「防災訓練」、「ホテル鑑賞会」、「ウォーキング大会」及び「裸祭り」の4項目も90%前後になっている一方で、「御当座」及び「神楽」の2項目は60%台とやや低くなっています。

図10 満足度



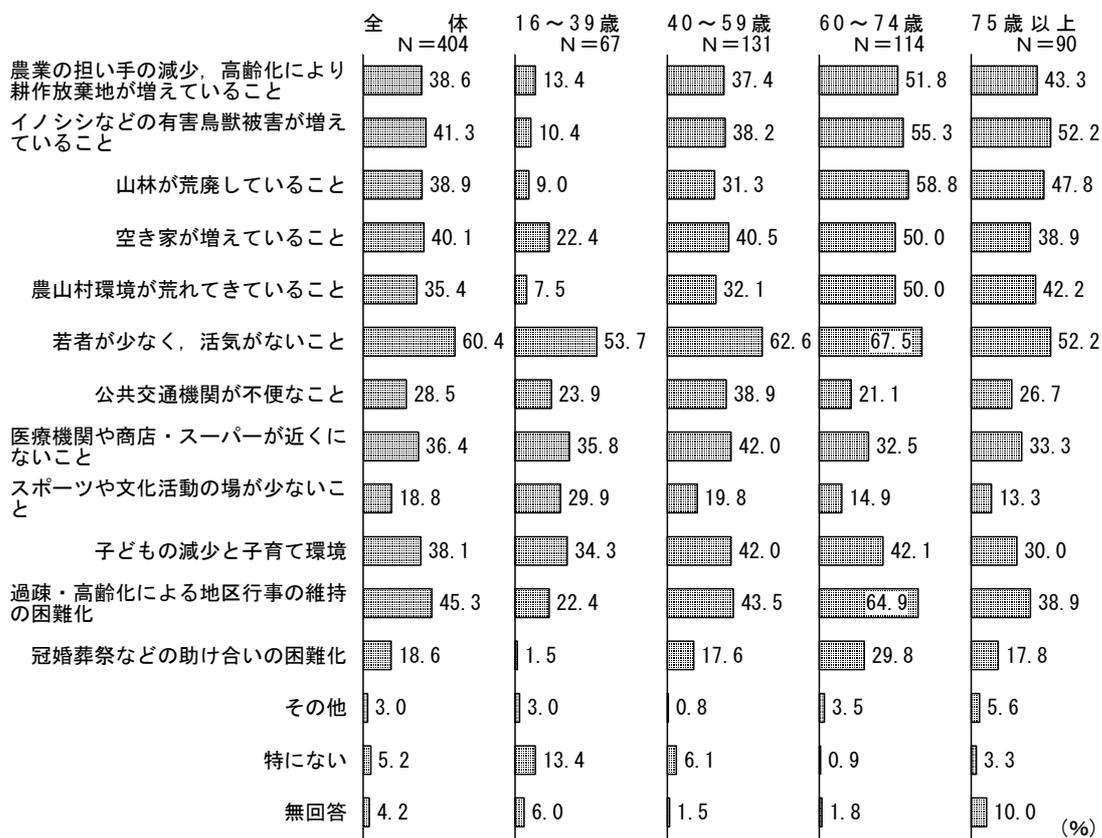
(3) 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

ア 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「若者が少なく、活気がないこと」が60.4%で最も割合が高く、次いで「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」45.3%、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」41.3%、「空き家が増えていること」40.1%、「山林が荒廃していること」38.9%の順で、これら項目が上位5位を占めています。特に、久井地域の中心地でありながら、地区の活気のなさや空き家の増加に不安を感じている人が多くなっています

その他では、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」38.6%、「子どもの減少と子育て環境」38.1%、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」36.4%、「農山村環境が荒れてきていること」35.4%などの順です。

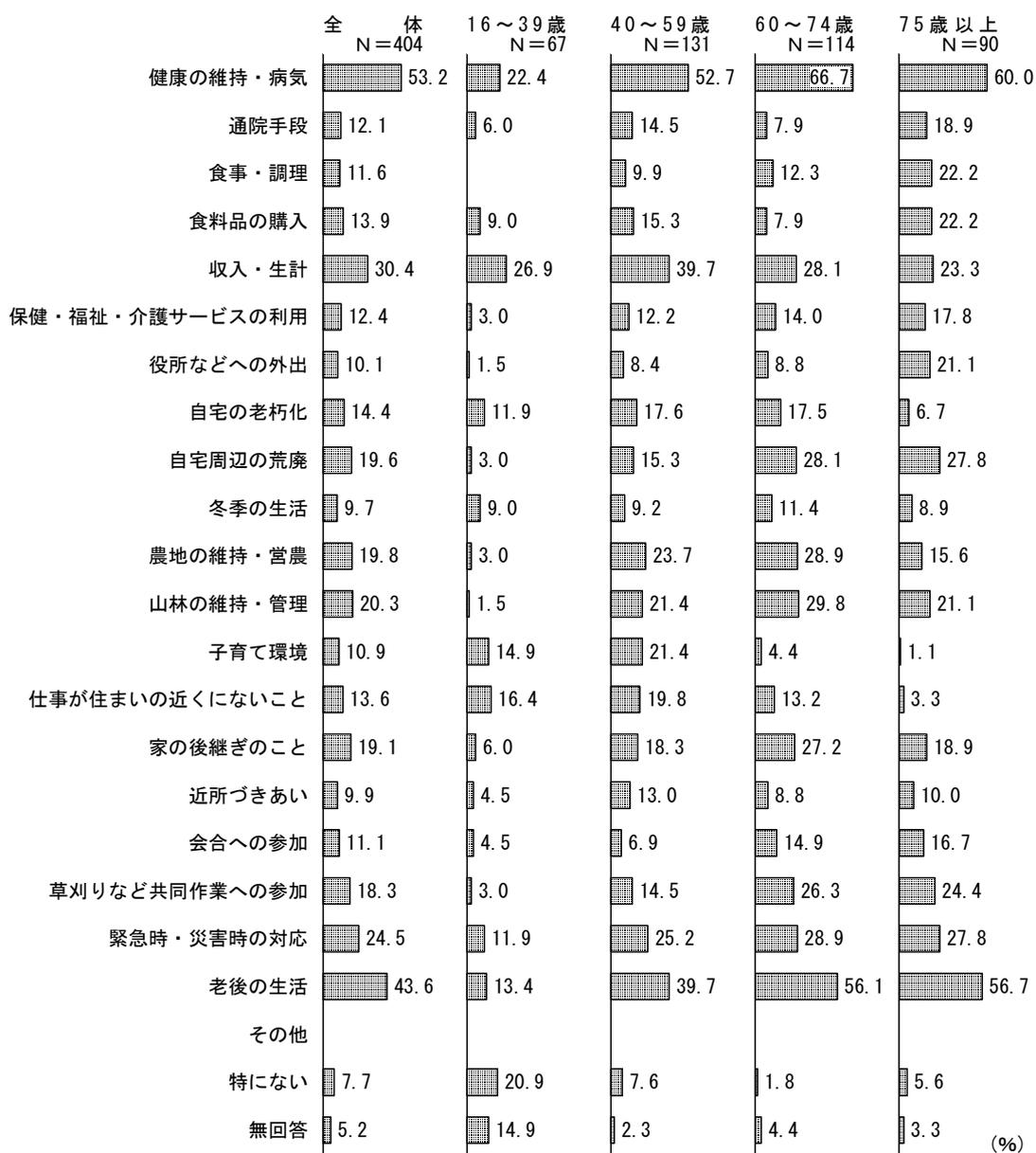
図11 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「健康の維持・病気」が53.2%で最も割合が高く、次いで「老後の生活」43.6%の順で、この2項目の割合が高くなっています。その他では、「収入・生計」30.4%、「緊急時・災害時の対応」24.5%、「山林の維持・管理」20.3%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「農地の維持・営農」19.8%、「自宅周辺の荒廃」19.6%、「家の後継ぎのこと」19.1%などの順です。

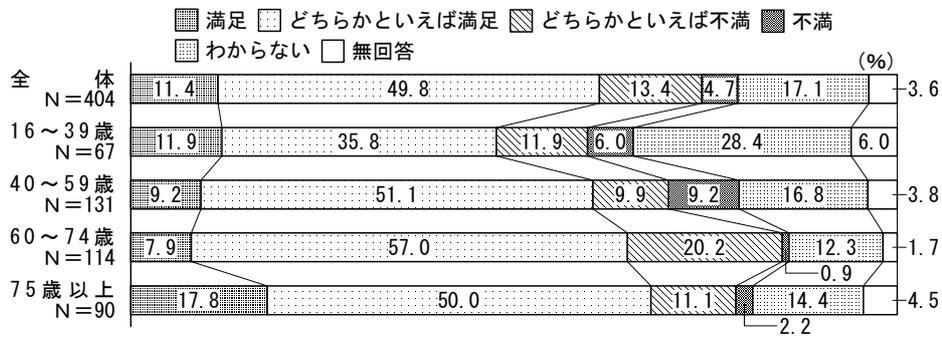
図12 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



ウ 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」11.4%、「どちらかといえば満足」49.8%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は6割以上を占めています。

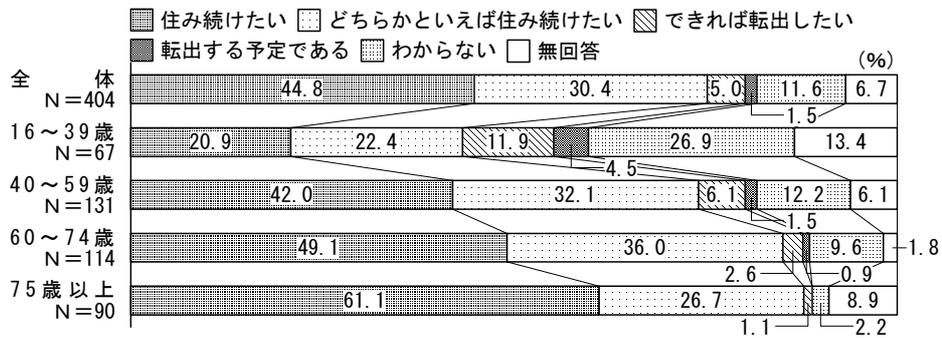
図13 地区の住みやすさの評価



エ 地区への今後の居住意向

地区への今後の居住意向は、「住み続けたい」44.8%、「どちらかといえば住み続けたい」30.4%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人が約3/4を占めています。

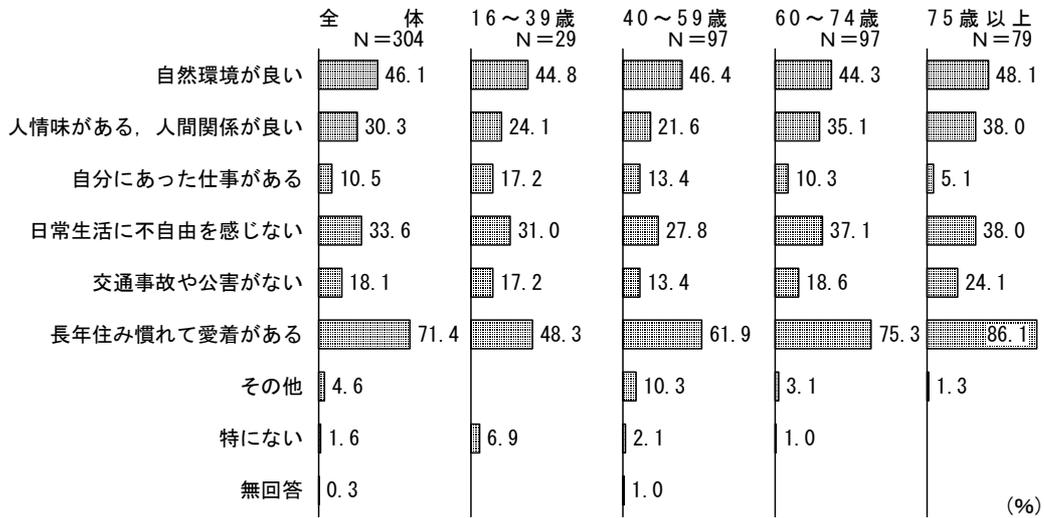
図14 地区への今後の居住意向



オ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向のある人の住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」が71.4%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」46.1%の順でこの2項目の割合が高くなっています。その他では、「日常生活に不自由を感じない」33.6%、「人情味がある、人間関係が良い」30.3%などの順です。

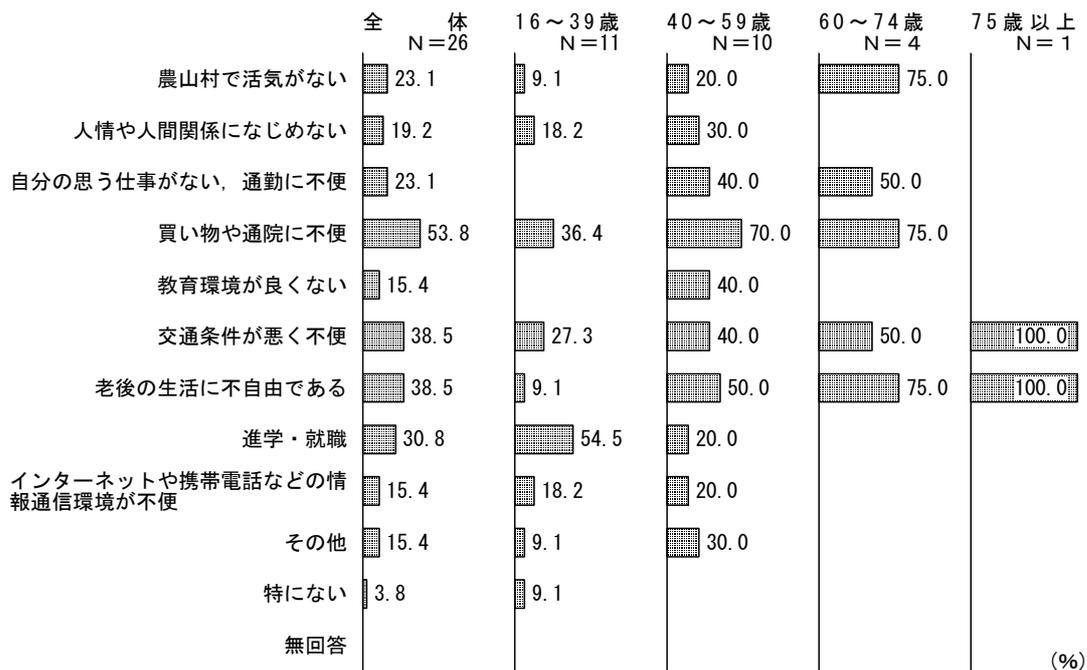
図15 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



カ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は、「買い物や通院に不便」が53.8%で最も割合が高く、次いで「交通条件が悪く不便」及び「老後の生活に不自由である」38.5%、「進学・就職」30.8%などの順です。

図16 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）

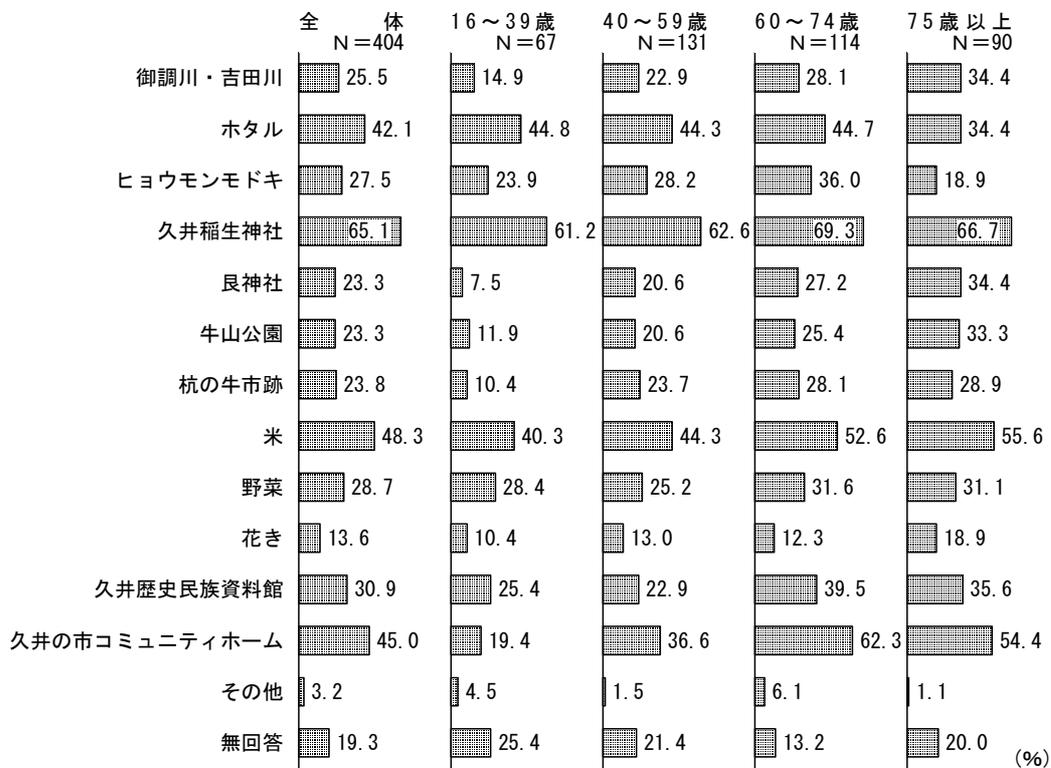


(4) 今後の地区づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源としては、「久井稲生神社」が65.1%で最も割合が高く、次いで「米」48.3%、「久井の市コミュニティホーム」45.0%、「ホテル」42.1%、「久井歴史民族資料館」30.9%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「野菜」28.7%、「ヒョウモンモドキ」27.5%、「御調川・吉田川」25.5%などの順です。「久井稲生神社」が本地区を代表する資源になっているほか、「米」に対する評価も高くなっています。

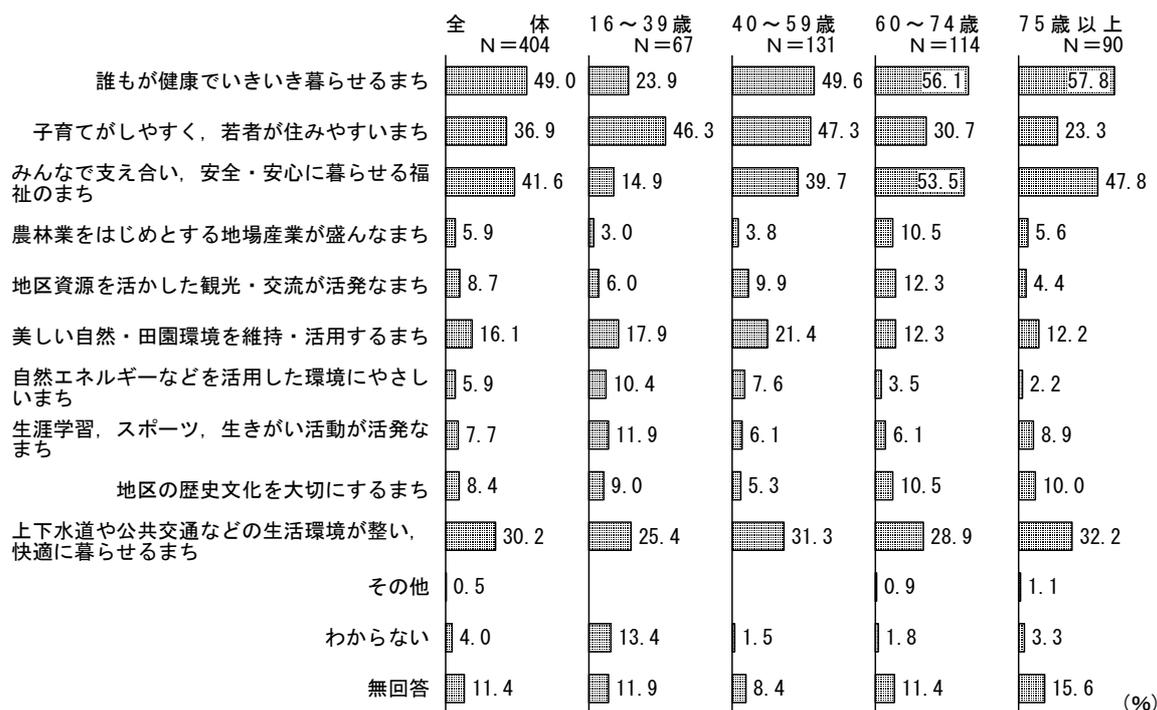
図17 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



イ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」が49.0%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」41.6%、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」36.9%、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」30.2%などの順で、これら4項目が30～40%台になっています。

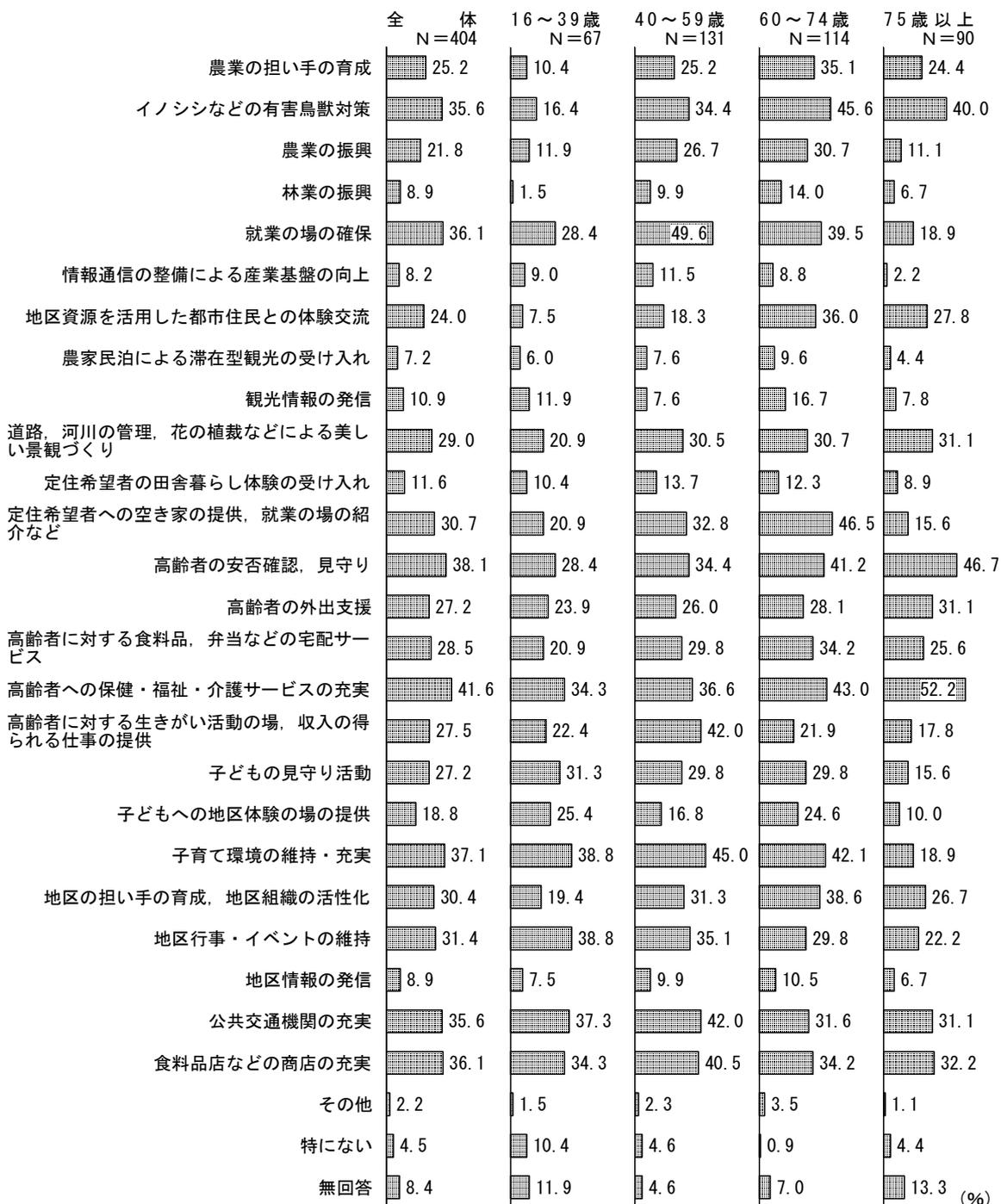
図18 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことは、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」が41.6%で最も割合が高く、次いで「高齢者の安否確認，見守り」38.1%，「子育て環境の維持・充実」37.1%，「就業の場の確保」及び「食料品店などの商店の充実」36.1%の順で，これら項目が上位5位を占めています。その他では，「イノシシなどの有害鳥獣対策」及び「公共交通機関の充実」35.6%，「地区行事・イベントの維持」31.4%，「定住希望者への空き家の提供，就業の場の紹介など」30.7%，「地区の担い手の育成，地区組織の活性化」30.4%などの順になっています。

図19 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）

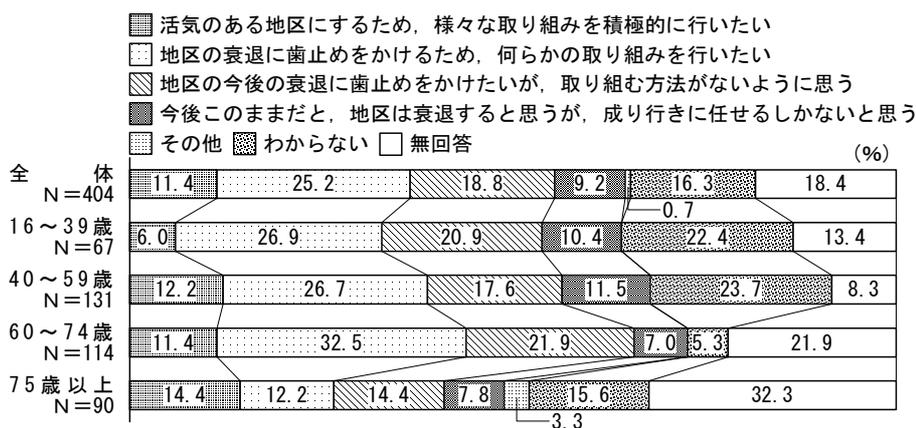


(5) 江木自治区の活動について

ア 江木地区の活性化に向けての取り組み意向

江木地区の活性化に向けての取り組み意向は、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」11.4%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」25.2%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は4割弱です。

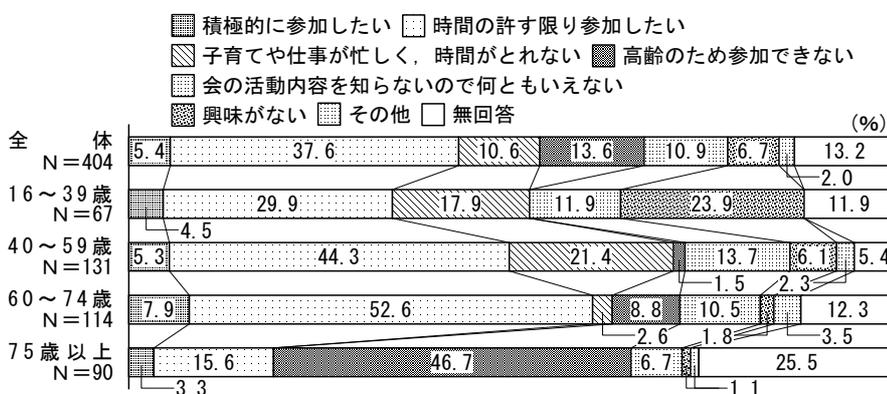
図20 江木地区の活性化に向けての取り組み意向



イ 江木自治区の活動への参加意向

江木自治区の活動への参加意向は、「積極的に参加したい」5.4%、「時間の許す限り参加したい」37.6%で、これらを合わせた自治区の活動へ参加意向のある人は4割以上です。

図21 江木自治区の活動への参加意向

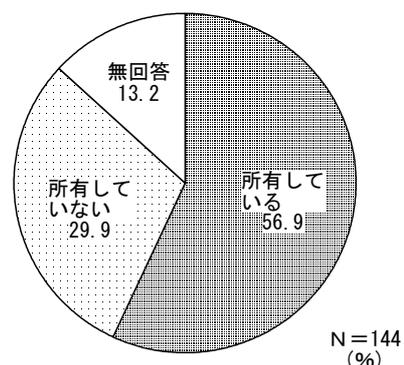


(6) 農地の所有・耕作状況について

ア 農地の所有状況

世帯主であると答えた方で、農地を「所有している」と答えた人は56.9%です。

図22 農地の所有状況



イ 農地を所有している人の状況

(ア) 農地の所有面積

農地を所有している人の農地の所有面積は、「30アール（3反）未満」と答えた人が46.3%で最も割合が高く、次いで「50～100アール（5反～1町）未満」28.0%、「30～50アール（3～5反）未満」12.2%、「100～200アール（1～2町）未満」7.3%、「200アール（2町）以上」1.2%の順です。

(イ) 耕作していない農地の割合

「荒らしている農地はない」と答えた人は50.0%です。

一方で、耕作していない農地がある人の割合は42.8%で、その内訳は農地の1～3割程度31.8%、農地の4～7割程度7.3%、「農地の全部」3.7%になっており、農地の1～3割程度の割合が高くなっています。

図23 農地の所有面積

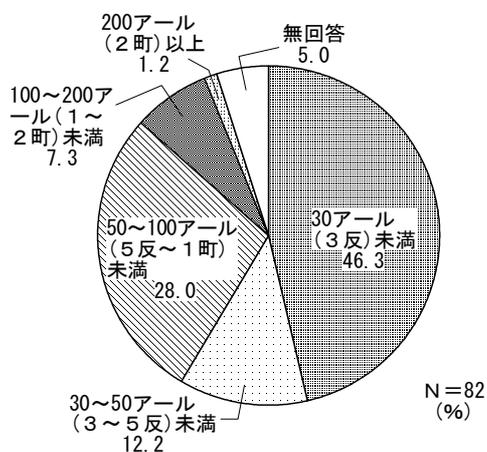
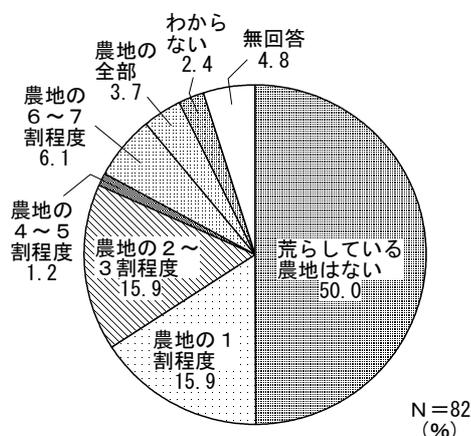


図24 耕作していない農地の割合



(ウ) 農地の現在の耕作状況

農地の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」が39.0%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作するとともに、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」29.3%、「家族で耕作せず、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」26.8%、「耕作を頼む農家や農業生産法人がないので、耕作していない」3.7%の順で、家族で耕作している人が約4割になっています。

(エ) 農産物の販売状況

農産物の販売状況は、「農産物を販売していない」が63.4%で、6割以上を占めています。農産物を販売している人は14.6%で、その内訳は「JAへ出荷している」11.0%、「JAへ出荷するとともに、農産物直販所などで販売している」2.4%、「農産物直販所で販売している」1.2%の順で、JAのみへの出荷がほとんどを占めています。

(オ) 農地の今後の耕作意向

農地の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」が58.5%で最も割合が高く、次いで「わからない」18.3%、「家族での耕作をやめ、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む」6.1%、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む面積を増やす」4.9%、「耕作をやめる」3.7%の順になっています。

また、「わからない」が18.3%になっており、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む意向を含めて、地区で耕作の受け入れ体制を検討する必要があります。

図25 農地の耕作状況

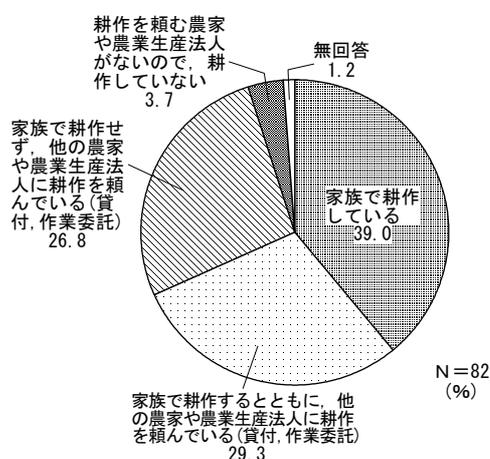


図26 農産物の販売状況

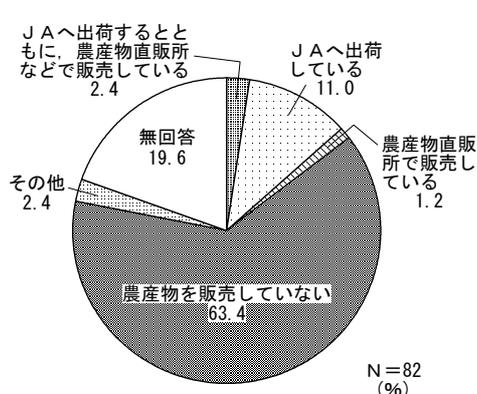
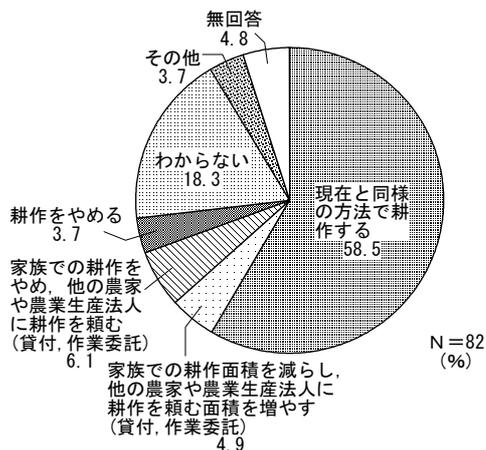


図27 今後の耕作意向



3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

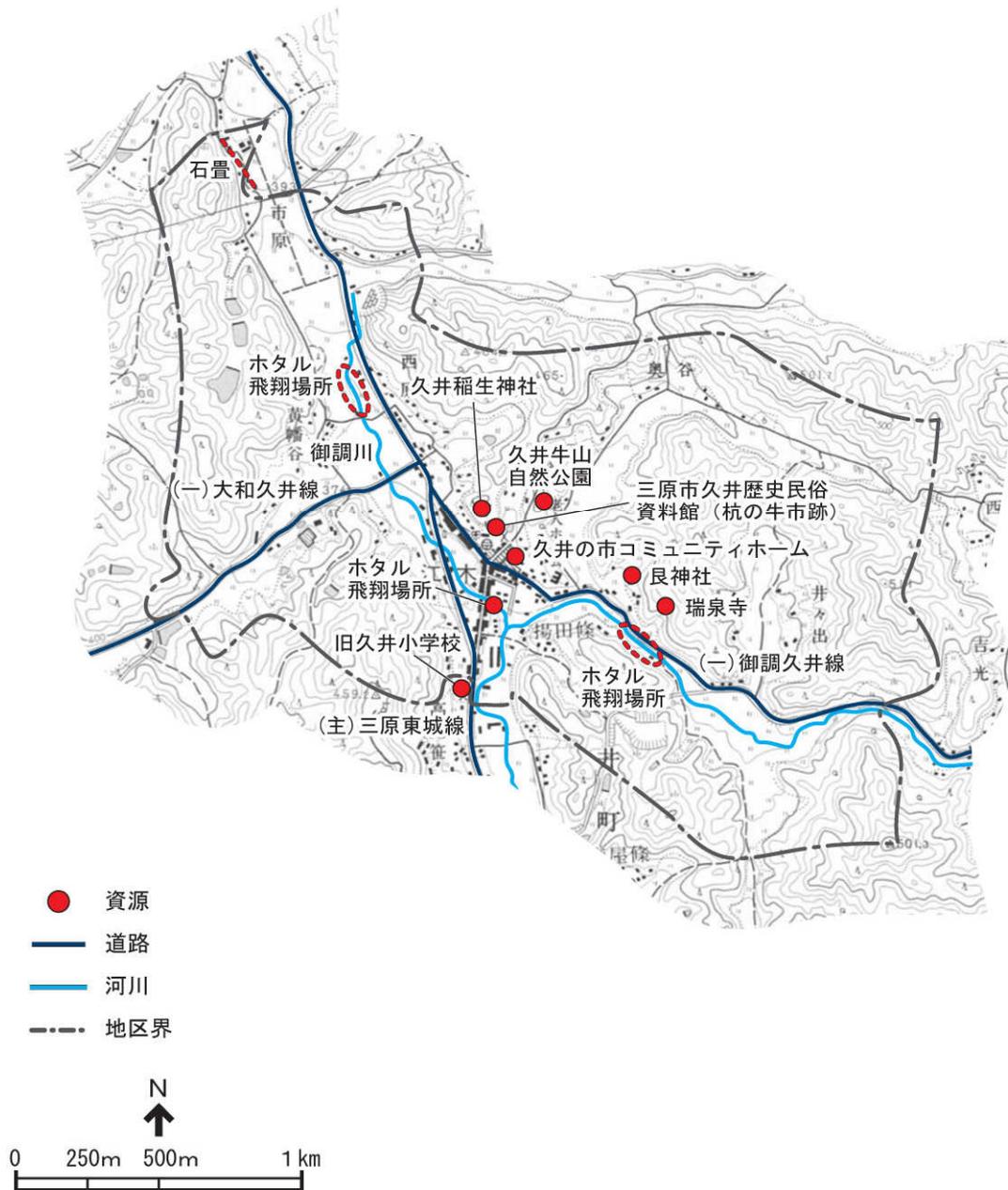
1 地区の魅力・資源

アンケート調査結果及び意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表4 地区の魅力・資源

区 分	地区の魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none">・ホタル・自然災害が少ない環境
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none">・久井稲生神社・久井稲生神社の祭り（県内唯一の裸祭り，祇園祭，御当座）・久井稲生神社の夜景・日本三大牛馬市の歴史・史跡（三原市久井歴史民俗資料館）・久井牛山自然公園・良神社・瑞泉寺・石畳
産業資源	<ul style="list-style-type: none">・商店街，空き店舗・農地が多い
地区活動	<ul style="list-style-type: none">・各種地区行事
その他	<ul style="list-style-type: none">・久井の市コミュニティホーム・旧久井小学校

図28 地区の魅力・資源



2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及び意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表5 地区の問題点・課題

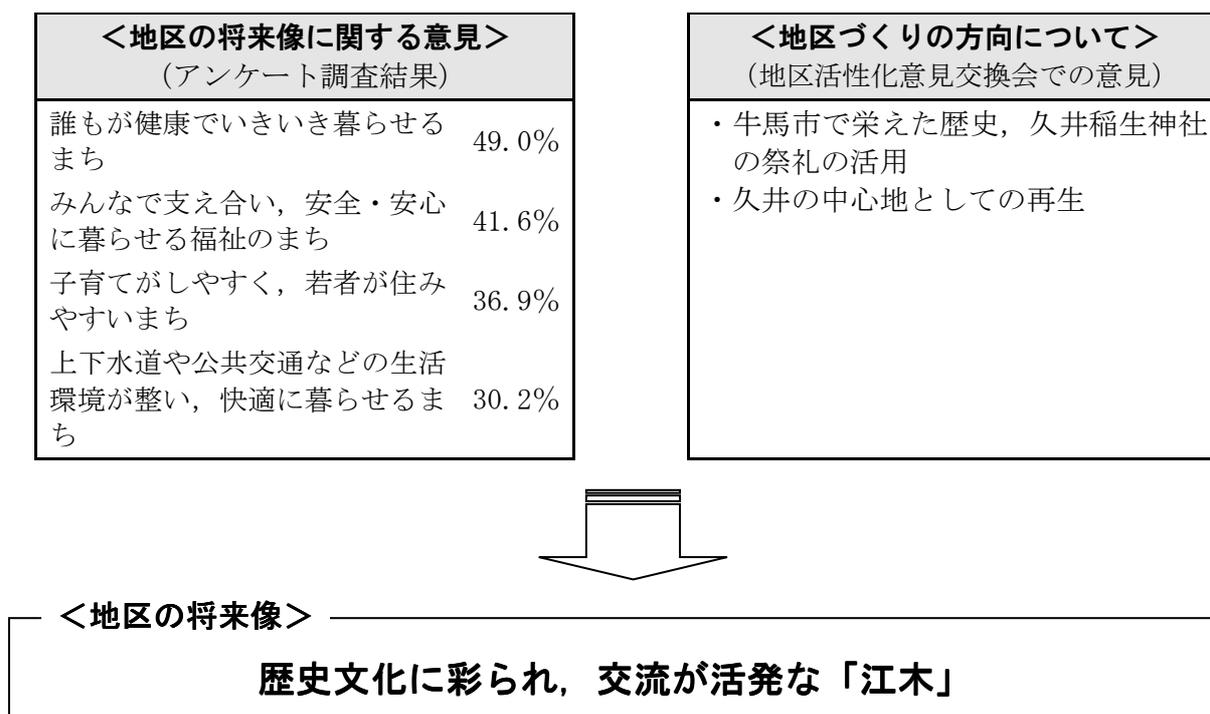
区 分	地区の問題点・課題
地区の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少，高齢化の進行 ・若者，子どもの減少
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・老後の生活不安（収入，介護等） ・健康状態（目が見えにくい，足が痛む等）の不安
若者の定住，子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が少ない ・若者の就業の場，遊ぶ場がない
農地の管理・農業	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣被害の増加 ・農業の担い手の減少（個人，農業生産法人） ・耕作放棄地の増加による地区環境の悪化 ・農業の担い手の高齢化により，農業の持続，草刈り等の管理の困難化 ・稲作では収入にならない
山林の管理・林業	<ul style="list-style-type: none"> ・山林の荒廃 ・樹木の立ち枯れの増加
商店街・商業	<ul style="list-style-type: none"> ・商店が減り，商店街が寂しい（電灯が点かず暗い，空き家が多い等） ・商店の維持の困難化，食料品店の減少，なくなる恐れ
生活環境	<p><道路交通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の舗装が悪い ・公共交通機関が不便 <p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関が少ない ・入院施設がなく，老後の生活が不安 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活，生産資材の店舗が遠く，不便 ・空き家の増加 ・空き家周辺に犬猫等の増加 ・旧久井小学校の有効利用
地区活動・近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> ・近所づきあいが希薄化，組内の付き合いが難しい（高齢化が原因か） ・地区の役員のなり手がいない ・組内での葬儀の困難化 ・同世代の交流の場，機会がない
行事・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の行事等への参画が少ない ・地区行事への参加が減少している ・祇園祭の参加者が少ない ・担い手不足で，伝統行事（祭），地区行事の維持の困難化 ・女性会，高齢者サロンのボランティアに若い人の参加が少ない ・行事が多い ・地区全員でのスポーツや文化活動の場が少ない
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者がいない ・家の後継のこと ・お金がない ・老後の生活資金の確保ができるか不安である

4章 地区の活性化計画

1 地区の将来像

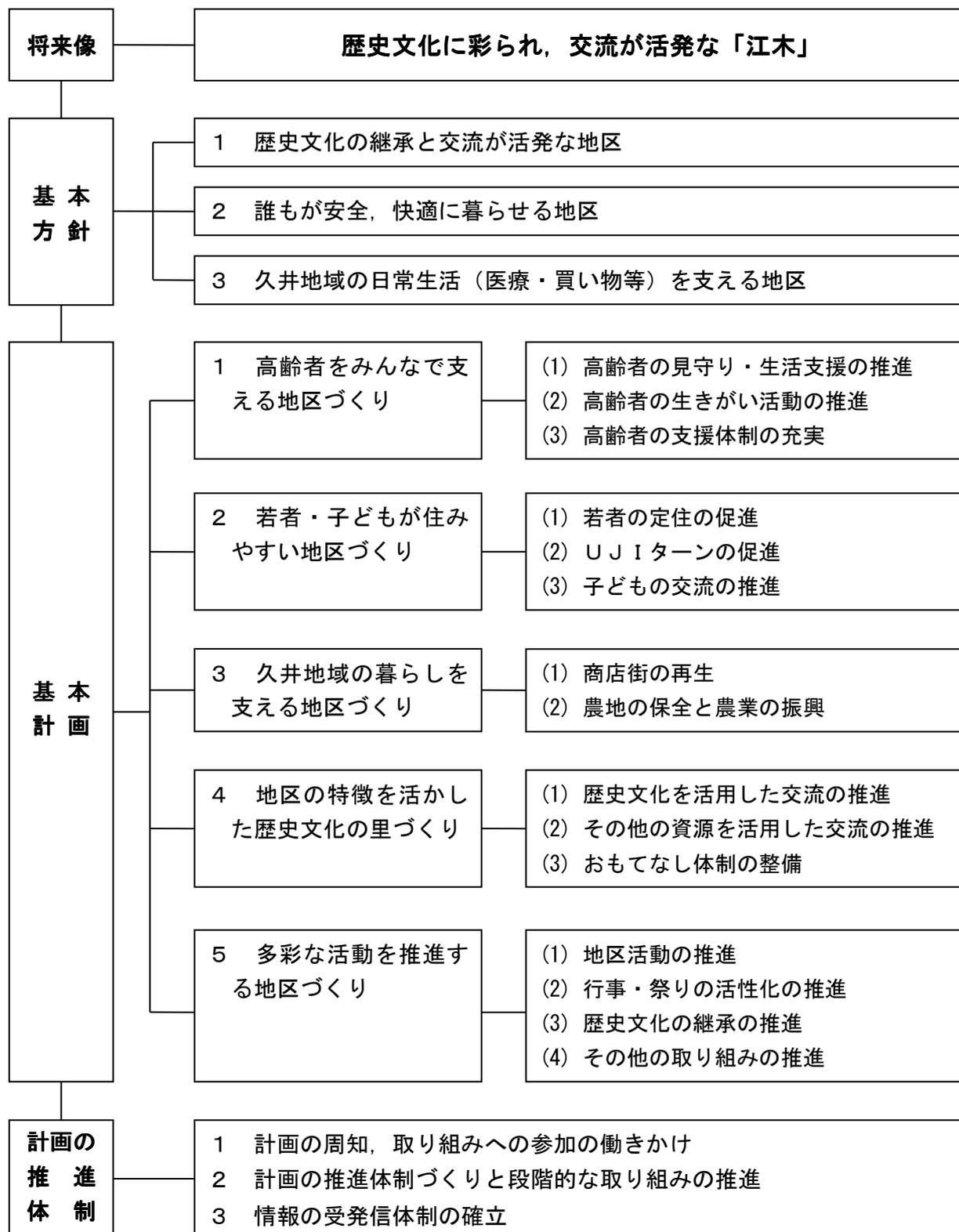
地区の将来像は、アンケート結果での地区の将来像に関する意見と意見交換会（ワークショップ）での地区づくりの方向に関する意見を踏まえて、「歴史文化に彩られ、交流が活発な「江木」」を掲げます。

図29 地区の将来像



地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図30 地区づくりの体系



2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

1 歴史文化の継承と交流が活発な地区

- ・牛馬市の歴史、久井稲生神社の行事・祭りなどを活用した交流が活発な地区
- ・久井地域全体の観光交流を推進する情報案内機能の集積した地区
- ・久井稲生神社の門前市として特徴のある景観形成がされた地区

2 誰もが安全、快適に暮らせる地区

- ・高齢者が健康状態に応じて安心して暮らせる地区
- ・若者、子どもが快適に暮らせ、U J I ターンの活発な地区
- ・多彩な地区活動が展開される地区

3 久井地域の日常生活（医療・買い物等）を支える地区

- ・久井地域の医療・商業の中心地区
- ・農林地が保全され、美しい田園景観が維持されている地区

3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画として5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容は、アンケート調査結果、意見交換会（ワークショップ）での意見をもとにとりまとめたものです。

1 高齢者をみんなで支える地区づくり

(1) 高齢者の見守り・生活支援の推進

- ・高齢者のニーズを踏まえた見守り・相談支援を行います。
- ・地区で行っている高齢者の見守り，サロン活動，弁当の配食，貯筋教室などを充実します。

(2) 高齢者の生きがい活動の推進

- ・高齢者が収入を得られる場（農業等）の提供に取り組みます。
- ・空き家を活用して，高齢者に対するお茶の間サロンの運営を行います。
- ・健康づくり事業を推進し，健康寿命の増進を図ります。

(3) 高齢者の支援体制の充実

- ・地区住民及び各種団体（自治区，社会福祉協議会，民生委員・児童委員，老人会，子ども会，いきいきサロン等）が連携して高齢者を総合的に支援する体制づくりを行い，効果的な支援を行います。

表6 具体的に取り組む事業

事業名	・高齢者総合支援事業
事業の目的	・高齢者が地区で安心安全に生活できる環境づくり
事業の対象	・江木地区
事業の内容	① 高齢者のニーズ把握 ② 組による高齢者の情報収集 ③ 高齢者の見守り ④ サロン活動の推進 ⑤ 弁当の配食 ⑥ 貯筋教室
事業の年次計画	・平成27年度：③～⑥は当面継続実施 ①～②については進め方を検討，調査実施 ・平成28年度：①～②の調査を踏まえて③～⑥を含む事業の見直し ・平成29年度：新規事業の実施
連携する組織等	・組，社会福祉協議会，民生委員・児童委員，老人会，子ども会，いきいきサロン，行政等

2 若者・子どもが住みやすい地区づくり

(1) 若者の定住の促進

ア 就業の場の確保

- ・若者の就業の場の確保，就業しやすい環境づくりに取り組みます。
- ・農家，農業生産法人と連携して，若者が就農できる環境づくり（就農希望者への農地の斡旋等）を行います。
- ・自然などの地区資源を活用した観光交流の推進による就業の場の創出に取り組みます。

イ その他

- ・子どもに対して，親が地区へ居住し，近隣に就業の場を確保するよう働きかけるように，地区全体で意識啓発に取り組みます。
- ・若者の出会い，交流の場づくりを行い，婚活を支援します。

(2) U J I ターンの促進

ア 空き家の活用

- ・移住希望者へ空き家を提供する体制づくりを市と連携して行います。
- ・空き家の所有者と交渉し，住宅だけでなく企業の事務所としても活用されるよう取り組みます。
- ・空き家の荷物保管場所の確保など，空き家所有者が貸しやすい条件づくりを行います。

イ I ターンの促進

- ・I ターンする若者が定住しやすい環境づくりを行います。

ウ 地区出身者との交流の推進

- ・地区出身者との交流を推進し，地区の行事・祭りへの参加を働きかけるとともに，Uターン希望者に対しては，住宅の修繕，確保などへの相談支援を行います。

(3) 子どもの交流の推進

- ・地区内の子どもの交流を推進するため，平日の下校後，土曜日における交流の場の確保を行います。

3 久井地域の暮らしを支える地区づくり

(1) 商店街の再生

ア 商店街の賑わいづくり

- ・商業者と連携して、商店街の賑わいづくりを行うこととし、毎月1回（日を決めて）フリーマーケットなどのイベント開催に取り組みます。
- ・商業者と連携して、商店街の空き店舗活用に取り組みます。

イ 商店街の特徴のある景観づくり

- ・商店街の魅力づくりに向けて、地区を挙げて商店街の景観づくり（花一輪運動、神明デコの展示等）に取り組みます。

ウ 商品の宅配サービスのPR

- ・商業者が実施している食料品などの宅配サービス事業のPRを高齢者などに行い、利用を促進します。
- ・インターネットを活用して、商店街情報の発信、ネット販売するなどの仕組みづくりを商業者に働きかけます。

表7 具体的に取り組む事業

事業名	・花やぎ商店街づくり事業
事業の目的	・商店街の賑わいの創出，魅力づくり
事業の対象	・町内外の人
事業の内容	<p><商店街の賑わいづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の空き家を活用して農産物販売等のフリーマーケットの開催（朝市風，月1～2回開催） ・久井地域の特産品の販売コーナーの設置 ・若者によるコンサート等のイベントの開催，地区外の住民等にも参加を働きかける ・場所を提供してダンス等の開催も検討する <p><商店街の特徴のある景観づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各商店に花一輪を飾る ・牛馬市が盛んだった頃のイメージで盛り上げる（神明デコの展示） ・牛のゆるキャラづくり <p><商店街の情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街マップ，年間行事表の作成，PR ・ホームページ，フェイスブック等で商店街の情報を発信する <p><駐車場対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場は久井化工跡地を利用，そこから久井稲生神社まで徒歩でアクセスしてもらう（参道的なイメージづくり）
事業の年次計画	<p><平成27年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・祇園祭，裸祭りでのフリーマーケットの開催 ・神明デコを一年を通して展示 ・デコ製作を他の地区に対しても働きかけ，商店街の軒先へ展示するほか，大きな神明デコは久井歴史民俗資料館広場等に展示 <p><平成28年度～></p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛のゆるキャラの募集 ・商店街マップ，年間行事表の作成等による商店街のPR ・フリーマーケットの開催回数の増回 ・空き店舗活用の実施
連携する組織等	・商工会，商業者

(2) 農地の保全と農業の振興

ア 有害鳥獣対策

- ・イノシシなどの有害鳥獣被害対策に集落単位で取り組みます。

イ 担い手の確保

- ・農業生産法人と連携して、地区の農地を集約化し、一体的に管理する体制づくりに取り組みます。
- ・農業生産法人と連携して都市部へ農業の担い手（若者）を募集し、希望者の受け入れを行います。

ウ 遊休農地の活用

- ・休耕田を活用して、都市住民向け貸し農園の運営を検討します。

エ 農業の振興

- ・地元食材が消費できるように、農産物直売所の設置を農家、農業生産法人に働きかけます。また、農産物及び加工品の直売を行う秋の収穫祭の開催に取り組みます。
- ・高齢者を農業の担い手として活用するため、JA三原や農業生産法人などと連携して軽作業で生産できる農産物の栽培に取り組みます。

4 地区の特徴を活かした歴史文化の里づくり

(1) 歴史文化を活用した交流の推進

ア 牛馬市の歴史の活用

- ・杭の牛市跡のある江木地区をPRするため、三原市久井歴史民俗資料館横の広場などに展示施設を建て、裸祭りで作った神明デコを展示するほか、ジオラマで最盛期の牛馬市の様子を再現します。
- ・久井牛山自然公園を環境整備し、利用を促進します。
- ・牛馬市の歴史を伝えるために、黒牛を飼い、子どもとふれあえるようにします。

イ 久井稲生神社の活用

(ア) 久井稲生神社のライトアップ

- ・江木地区を象徴する久井稲生神社のライトアップを充実し、夜間も県道から意識されるようにします。

(イ) 久井稲生神社の祭りの活性化

- ・県内唯一の裸祭りのPRを強化し、インターネットで全国から参加者を募集するとともに来訪客を増やします。
- ・午前中で終わる祇園祭後に衣装の試着、獅子舞の体験などを提供し、イベントの魅力の向上を図ります。
- ・久井稲生神社の祭りにはアマチュアカメラマンが多く来訪することから、写真コンテストを開催して、こうした層の一層の参加を促進します。
- ・久井稲生神社神楽殿を活用して、特徴のある神楽大会の開催を検討します。

表8 具体的に取り組む事業

事業名	・久井稲生神社イルミネーション&神楽大会開催事業
事業の目的	・久井稲生神社のPRを通じて来訪客（地区出身者、観光客）の増大を図り、地区の活性化に結びつける
事業の対象	・住民，地区出身者，来訪客
事業の内容	・稲生神社の参道，鳥居，本殿のLEDライトアップ ・神楽殿での神楽奉納大会の開催 ・商業者等と連携して飲食の提供，特産品の販売
事業の年次計画	<平成27年度> ・本殿のみのライトアップ ・神楽の奉納 ・門前市（フリーマーケット）の開催（飲食の提供・特産品の販売等） <平成28年度> ・ライトアップ，イベントの規模を段階的に拡大
連携する組織等	・久井稲生神社（宮総代），女性会，子ども会，商工会，商業者，農業生産法人，農家等

(2) その他の資源を活用した交流の推進

- ・江木東地区のホタル観賞場所を整備するとともに、観察会を開催します。
- ・江木地区の歴史文化資源（牛馬市の歴史及び久井稲生神社）と、宇根山一帯の観光資源との連携を図り、広域的な観光交流を推進します。
- ・久井牛山自然公園の桜を活かして桜祭りを開催します。

(3) おもてなし体制の整備

ア 情報案内施設の整備

- ・地区中心部に、駐車場，トイレ，特産品売店などを配置した交流施設や民俗資料などの展示，学校関連の歴史的な資料の展示場所などの整備を検討します。
- ・江木地区の行事・祭りなどの情報発信を行うために，インターネットを活用した情報発信を行います。

イ 宿泊・飲食サービス施設の整備

- ・宿泊して農業体験できる場（民泊）の整備や空き家を民宿などに活用することを検討します。
- ・商店街の空き家を活用してカフェを設置し，数量限定のスイーツ，クッキーの販売を検討します。

5 多彩な活動を推進する地区づくり

(1) 地区活動の推進

- ・青年団を復活することにより若者の交流を推進するとともに、地区の担い手の育成に結びつけます。
- ・地区の様々な行事への住民（特に若い人）の参加を促進するとともに、飲み会などで親睦を図ります。
- ・趣味教養活動ができる場所の確保に取り組みます。

(2) 行事・祭りの活性化の推進

ア 新規行事の開催

- ・高齢者の経験・知識を活かして、子ども・若者などとの世代間交流を推進します。
- ・子どもが興味を持つゲーム性の高いイベントを行い、子ども・保護者の参加を促進します。
- ・江木地区全員が参加できる運動会の開催、山登りの復活に取り組みます。
- ・同世代の交流を促進するため、年代別の交流会の開催に取り組みます。
- ・関心のある人が担い手として積極的に関わることができるように、実行委員会方式でのイベント開催を検討します。

イ 既存の祭りの充実

- ・年間行事・祭りカレンダーを作成し、それぞれの行事・祭りを関連づけてPRを行い、リピーターの増大を図ります。また、年間行事・祭りカレンダーの作成を通じて、地区の行事・祭りが重ならないように調整し、個々の行事・祭りへ参加者が集中するように取り組みます。

表9 江木地区の主な祭り

月	行事・祭り	内 容
2月	裸祭り（久井稻生神社）	・写真コンテストを開催する
3月	ウォーキング大会	・番所まわり、軽食（ポップコーン、子どもを集める）の提供等を行う
4月	良祭り（良神社）	・参加者を増やす
6月	ホテル鑑賞会	・地区住民だけでなく地区外からの来訪客を増やす
7月	祇園祭（久井稻生神社）	・午後も楽しめる行事をする ・行列の衣装を整える
8月	夏祭り・子供相撲	・地区出身者の参加を増やす
10月	御当座（久井稻生神社）	・神事の説明画像を流し、見られるようにする ・写真コンテスト結果の発表会を行う
11月	秋の祭り	・神輿（大人）を復活する ・地区外からの来訪客を増やす

ウ その他の取り組み

- ・くじのPRを強化し、イベントへの集客に結びつけます。
- ・地区の行事・祭りへ近隣住民が誘い合って参加するように働きかけます。

(3) 歴史文化の継承の推進

- ・久井稲生神社で毎月1回勉強会を開催し、江木地区の歴史文化の継承、伝統行事の維持、充実に努めます。
- ・勉強会への参加を通じて、来訪客に地区の魅力を紹介できるようにします。

(4) その他の取り組みの推進

- ・江木地区のゆるキャラ（ウッシー）を作成し、地区のPRに活用します。
- ・地区の活性化を図るために、旧久井小学校などの活用方策を検討します。

4 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

地区住民へあらゆる機会を通じて「江木地区活性化計画」を周知するとともに，取り組みへの参加を働きかけます。

- ・江木地区活性化計画概要版を全戸配布します。
- ・各組及び関係組織の会合で江木地区活性化計画の説明会を行います。

(2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

ア 計画の推進体制づくり

- ・江木自治区に「地区活性化計画」の推進部門を設置し，この部門を中心に計画の具体化に取り組めます。
- ・江木地区の各種団体との連携を強化し，一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）を行います。

イ 段階的な取り組みの推進

- ・計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを推進します。

<優先的に取り組む事業の候補>

- ・高齢者総合支援事業
- ・花やぎ商店街づくり事業
- ・久井稲生神社イルミネーション&神楽大会開催事業
- ・江木地区魅力発信事業

ウ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・住民，各種団体，農業生産法人，企業などとの連携を強化します。
- ・地区出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援を活用します。
- ・講習会，研修会，先進地視察などの実施による人材の育成を図ります。

(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内向けの情報発信

- ・江木自治区だよりの発行を検討します。
- ・若者世帯などに対し，インターネットを活用した情報の発信を行います。

イ 地区外向けの情報発信

- ・インターネットを活用した江木自治区の情報発信体制づくりを行い，地区出身者，都市住民に対して地区の魅力・活動を発信することにより，交流を推進します。

ウ 人材の確保

- ・江木自治区のホームページを管理，活用できる人材を確保，育成し，タイムリーな情報の発信体制を確立します。

資料 計画策定の取り組み

計画策定の経緯

日 程	委員会等	協議事項
平成26(2014)年 7月15日(火)	第1回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画策定委員会の設置 ・「地域計画」策定の進め方について ・アンケート調査，地区活性化意見交換会について
8月4日(月)	第2回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査票について
9月1日(月)～ 9月20日(土)	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施（地区内住民（16歳以上））
10月1日(水)	第1回江木地区活性化 意見交換会（ワー クショップ）	<ul style="list-style-type: none"> ・地区で困っていることとその解決のアイデアについて
11月4日(火)	第2回江木地区活性化 意見交換会（ワー クショップ）	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果の報告 ・地区の魅力・資源と活用のアイデアについて ・参加者が具体的に組みたいこと，組み んでほしいこと
12月5日(金)	第3回江木地区活性化 意見交換会（ワー クショップ）	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別の具体的な取り組みについて
平成27(2015)年 2月24日(火)	第3回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案の協議，修正
3月19日(木)	第4回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案の協議，承認